

政務活動費 (県外)・海外) 調査研究報告書

会派名 県民クラブ

日 程	令和元年8月20日(火)～令和元年8月20日(火)
場 所	大阪府大阪市北区梅田1-10-1 梅田DTタワー
相手方	東京インタープレイ株式会社
参加議員 氏 名	小嶋秀行・木田昇
目的・内容 ・成果等	<p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京インタープレイ株式会社の主催による「自治体向けICT推進セミナー」の聴講 <p>(内容)</p> <p><導入1年で効果あり！ 議会・防災・働き方改革> 冒頭、東京インタープレイ株式会社の担当者から、同社が開発したペーパーレスシステム「SideBooks」の紹介や、自治体でのICT(タブレット端末)導入の概要等について説明があった。同社の製品はすでに170を超える自治体(議会も含む)で採用され、自治体でのペーパーレスシステムとしては9割のシェアを有している。これまでの事例では、執行部先行でなく議会先行で導入する事例が大半を占めている。タブレットのタイプは、Wi-FiモデルとLTEモデルのタイプがあるが、議会での導入はLTEモデルの採用が90%を超えている。なお、LTEモデルの方が端末紛失時の使用ロックなどセキュリティ面でもメリットがあると言われている。</p> <p>議員と議会事務局との連絡は電話やFAXが中心であるが、チャットアプリ(LINEのようなツール)を利用すると業務改善がかなり図られる。熊本市の災害対策本部を原則ペーパーレス化した事例も紹介され、災害時に毎日頻繁に開催される災害対策会議の資料作成と配布作業を効率化し、関係者の負担軽減を図ったとのことであった。</p> <p>議会へのICTの導入に向けては、まずは「ICT検討委員会」のような合議体を設け、執行部(情報政策課など)とも意見交換し、運用基準を定めることなどが必要との説明であった。</p> <p><議会ICT化と「開かれた議会」への展望> 次に、議会での導入事例として兵庫県洲本市議会の木戸隆一郎議員(二期)から説明があった。議員定数18人の議会で、平成26年度からタブレット端末の導入の検討をはじめ、平成28年度から運用が開始されている。導入にあたっての予算要求では、執行部との協議により通信費は、市費1/3、議員2/3の負担割合になったとのことである。(年間の議会中を公費負担するとの考え方で整理された)</p> <p>洲本市議会ではLTEモデルを採用しているが、議会ではペーパーレス用に整備されたWi-Fi回線を利用している。導入当初は紙資料と併用したが、平成30年2月定例会から完全ペーパーレス化になったとのことであった。導入効果としては、「ITリテラシーが向上する」「常に最新の情報を全員が共有できる」「いつでもどこでも豊富な資料を活用できる」「必要な情報を探し出すのが簡単になった」等の内容が説明された。</p> <p><ペーパーレス会議システムSideBooksの操作体験> 実機(iPad ProのA4タイプ・B5タイプ)を使用して、SideBooksの様々な機能を講師の指導により実際に使ってみた。資料閲覧はもちろんだが、メモ機能、画面分割や横断検索などを体験した。保存資料は階層フォルダ別(他自治体での利用事例で構成)に整理されており、目的とする資料がどこに保存されているのかも分かりやすく、メモ機能も簡単に使いやすいものであった。(模擬議会で電子採決も体験した)</p>

(成果)

本県議会に設置された政策検討協議会では、議会でICTを導入すべき方向性が昨年度示されており、本セミナーに参加したところである。

本セミナーの主催者である東京インタープレイ社が開発したシステム「SideBooks」はペーパーレス導入自治体の約9割のシェアをもっている。

(全国では都議会と4県議会が同社のシステムを導入済)

直近では、山梨県議会が本年6月から導入している。先進事例として洲本市議会の木戸議員から導入効果の報告があったが、同市議会の議員アンケートにもあるとおり、議員と議会事務局(執行部も含む)との事務連絡等でFAXを改めて、タブレット配信にしたことのメリットは大きいと感じた。

タブレット端末の導入費用は掛かるが、一方ではコピー枚数減少による消耗品費、印刷製本費用の削減のほか、FAX通信費の削減や職員の作業時間の短縮といった効果も期待できる。

導入にあたり、「議員によっては使いづらいのでは」との心配があるかも知れないが、洲本市議会のように事前研修を行っておけば、その様な不安も払拭できるようである。(同社は、会派別にセミナーやデモに対応する)

議員としては、住民に対して県の政策や事業等を最新の情報で的確に「いつでも、どこでも」説明する責任がある。また、様々な事務連絡等をFAXを見るまで分からない、あるいはPCでメールをチェックするまで分からないような状態では如何なものかとも感じる。

大量の紙資料を常に持ち歩くわけにはいかないのは当然のことであるし、最新の情報が議員に伝わっておくべきだとも考える。また、ICTの活用は議会運営の効率化や議員活動の充実化にもつながるものである。

従来のペーパーレスシステムより機能が使いやすくなっていることも体験し、本県議会においても早期にICTの導入を進めるべきだと本セミナーを通じ改めて感じた。県議会の活性化議論にも資する有意義な調査活動であった。